

計測委員会

日本医学物理学会 会長 殿

平成 24(2012)年度の活動につき、下記の通り報告します。

報告者氏名 齋藤 秀敏

委員 委員長◎ 副委員長○ 分科会リーダ△	齋藤秀敏◎、荒木不次男○、浅田恭生△、小口宏、加瀬優紀、河内徹、川村慎二△、熊崎祐、小島徹、佐方周防△、櫻井良憲△、佐藤智春△、志田晃一、田中隆宏、歳藤利行、根本幹央、羽生裕二、林直樹、福村明史△、森下雄一郎、山田崇裕、脇田明尚
今年度課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活動分野を「診断線量」、「標準計測法」、「荷電粒子線」、「小線源」、「線量標準」、「光子・電子線」、「中性子線」の分科会とし、委員会活動を行う。 2. 一次線量標準における照射線量、水吸収線量計測に関する委員会活動を行う。 3. 二次線量標準における照射線量、水吸収線量計測に関する委員会活動を行う。 4. 「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法(標準計測法 12)」を発行し、関連する研究の継続、広報、普及活動を行う。 5. 小線源強度計測用ウェル形線量計校正事業の確立に向けた委員会活動を行う。 6. 診断線量、荷電粒子線、光子・電子線、中性子線に関する問題解決に関する委員会活動を行う。 7. その他
委員会開催 履歴	9月14日 於:つくば国際会議場 出席 21名
総括 不足の場合は別紙付加可	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分科会リーダを決定し、各委員は一つ以上の分科会に関与して委員会活動を行った。 2. 一次線量標準での水吸収線量計測における防浸鞘の有無、電離箱－防浸鞘間の空気層の存在および⁶⁰Co γ線源放射能低下に伴う不確かさに関する検討を行った。 3. 10月からJCSS認定の水吸収線量標準による電離箱校正を開始した。これに関連して($N_C k_{D,x}$)と$N_{D,w}$の相違の統計調査および原因に関する検討を行った。 4. 「外部放射線治療における水吸収線量の標準計測法(標準計測法 12)」を9月に2,000部を刊行した。また、二刷りのため正誤校正作業を行い、1,400部を4月に刊行することとした。さらに、水吸収線量計測に関する研究、広報、普及活動を行った。 5. ¹⁹²Irに対するウェル形線量計校正事業の確立に向け、JASTROとの協働によりアンケート調査を行った。 6. その他、各分科会において計測に関する問題調査を行った。